

朔東地域も冬の佇まいである。19日に実施した師団の持続走競技会は、統裁用の天幕を吹き飛ばすほどの瞬間最大風速20m/sを超える寒風の吹き荒ぶ中で行われたが、流石に寒かった。

十勝晴れに恵まれた当地ではあるが、寒さは一入^{ひとしお}である。朔東の寒さが引き起こす独特の気象現象がある。その幾つかを紹介しよう。写真を公開し得る日があることを念じつつ。

① オーロラ

極光とも言う。主として高緯度地方の極高層大気中に発生する発光現象。即ち、地球外から入射してくる電子や陽子の群れが地球の超高層大気粒子に衝突して、超高層大気の子分子や原子などを振起し発光させる。これらの荷電粒子はそれほどエネルギーが高くないので、地球の磁場をそれほど横切らずにすむ極地方にオーロラは多く見られる。ローマ神話の夜の星々を追い払う夜明けの女神「アウロラ」(aurora)に由来している。フィンランド語で、「レボントゥリ」(キツネの火)であり、狐の尻尾で描かれているようだと見做したものの由或いは、黒キツネの尻尾が舞い上げる粉雪が太陽の光に染まりオーロラになったとの言い伝えもある。オーロラには大別して、極冠グローオーロラ、極光帯型オーロラ、中緯度オーロラの3つが見られる位置により区分されている。中緯度オーロラは、激しい磁気嵐に伴って日本やヨーロッパ、アメリカ等の中緯度地方で見られる赤いぼんやりしたオーロラであり、朔東地域では、陸別町の銀河の森天文台で稀に観測される。因みに同天文台に確認したところ、2000年に1回、2001年に4回、2002年は4月までに2回の観測・撮影に成功している。皆さんがTVでオーロラとして見られる所謂カーテン型オーロラは、主として夕方から深夜にかけて高緯度に現出する。

ミステリアスな気象現象ではないか。日本人ほどオーロラに興味と関心を持つ民族は少ないようだ。日本民族は古来より神秘的なものに畏敬の念を払ってきており、当然だろう。

② 御神渡り

御神渡りといえば、長野の諏訪湖のそれが余りにも有名であるが、この朔東の地でもそれは見られるのである。諏訪湖の御神渡りは、諏訪明神が下諏訪のお后に逢いに行った夜明けの帰りに走っ跡が一筋の割れ目になったものだと伝説がある。端的に言えば、結氷した湖面に生じる氷提即ち氷の堤である。御神渡り現象は次のようにして起きると考えられる。全面結氷後に夜間の寒気の為、割れ目が生じ、そこへ下の水が登って結氷する。朝になり、気温が上がって膨張する時、両側から圧縮されて割れ目沿いに氷が持ち上げられる。その際にはバリバリと大きな音を発する。御神渡りの造形美は、見た者をして感嘆せしめずにはおかない。朔東地域では、屈斜路湖、摩周湖、塘路湖等で御神渡りが見られる。中でも、屈斜路湖の御神渡りは、長さが10キロメートル、高さが2メートルにも及ぶことがあり、その規模において日本一と称しても過言ではない。流氷でも御神渡り現象は起きる。知床半島ウトロの流氷の御神渡りの写真をHPで確認した。

③ 凍裂(木の悲鳴)

凍裂とは、厳寒期に樹幹が縦に裂ける現象である。気温がマイナス25度以下(か或いはそれよりももっと低い?何れにしろ、諸説紛々として、断定的なことは言えぬ。悪しからず。)に

なると、凍裂を起こすが、この時には物凄いはじけるような音響を発するようだ。このときの音を詩的表現では、「木の悲鳴」と言う。この割れる瞬間を目撃した者は居ないとも言う。音については録音されているようだが……。凍裂現象の原因は、木材の中心部に位置する心材の中の水分を異常に多く含む材(水食い材)が凍るためだとか、急激に温度が下がった場合に木の内外温度差により縮む量が違う為と考えられている。日本の最低気温は、昭和 53 年 2 月 17 日、幌加内町母子里地区で記録されたマイナス 41. 2 度 C であり、年々温暖化が進行していることもあり、この記録は当分破られることはないのではなかろうか。尚、日本一シバレル町を標榜しているのは、管内陸別町である。

④ 四角い太陽

標津町から根室海峡へ海老の尻尾のように突き出た砂嘴(さし)が野付半島である。野付半島や尾岱沼周辺の見ものは真冬の幻影「四角い太陽」だろう。野付名物の四角い太陽は、冷え切った空気と海上の空気との温度差が作り出す一種の蜃気楼現象である。この現象は、太陽の高度が最も低く、大気の層が最もよく厚くなる日の出に見られる現象である。時に四角に、時には六角に、はたまた、ある時には達磨状、若しくは朝日に雲が掛かりワイングラス状にある HP の表現)見えると言う。厳しい寒さが作り出す自然の妙・神秘に触れる機会は年に数回しかないらしい。因みに蜃気楼と言えば富山湾が有名であるが当地も決して引けを取らない。

⑤ ダイヤモンドダスト

マイナス 20 度 C 以下の低温になると、氷晶核を芯にして出来た、小さな氷の結晶で、太陽に輝いてキラキラ見えることから diamond-dust と呼ばれる。太陽や月の暈(かさ)、光柱(所謂サンピラー)などの現象は、氷晶による反射、屈折によって作られる。サンピラーは、ダイヤモンドダストに太陽の光が乱反射するときに、地上付近に光の柱が立ったように見える現象である。名寄のピアシリが夙に有名であるが、朔東地区でも見られない訳ではないようだ。

⑥ 流氷

余りにも有名であるので、省略しても良いのだが、網走市役所観光課に聞いたところでは、「アムール川から流れ出した氷は、暖かい海に入り当初「氷泥」(ドロドロした状態)になり、次に蓮氷(はずごおり)になり、次いで流氷となると言う。春に向かい、海が緩み始めると流氷と海水の接切部が溶け始めるけれども、この時カナトコ状になるのでカナトコ氷とも呼ばれるとのことである。」流氷と流氷観光船については朔東から第 7 号

(<http://homepage2.nifty.com/teruo3/sakutou/sakutou.htm>) を参照して下さい。

(参考:百科事典、各種 HP、銀河の森天台聞き取り、網走市役所観光課聞き取り等)